

ヤシマゴンザエモン 八島權左衛門 前田利常の時御射手となつて、知行百石・弓料五十石を受け、元祿元年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ヤシマゼンザエモン 矢島善左衛門 父清左衛門は津田勤兵衛の興力であつた。善左衛門、寛永十九年前田光高に仕へて御異風となり、知行百二十石・異風料三十石を受け、萬治元年歿。子孫藩に世襲する。

ヤシマタメツグ 八島爲次 通稱半藏。初諱は重隆、爲基。射手組の士權左衛門の二男。享保二十年新たに百石を賜はり、定番馬廻組に班して能美郡代官に任じ、寶曆十三年四月廿六日七十六歳を以て歿。爲次は劍術に練達して一流を爲した。

ヤシマタメノリ 八島爲矩 通稱金十郎・金藏。半藏爲次の孫。天明二年新番、五年金谷御近習番加人となり、六年四月閉門、七年五月御免、寛政七年新番小頭、文化十三年組外に列し、二、九御廣式御用達に進み、次いで祿五十石を加へて二百石を領し、文政八年十月致仕して一刀と稱し、料十人扶持を受け、九年八月朔日歿した。爲矩は最も劍術を能くするを以て知られた。

ヤシマハンザエモン 矢島判左衛門 寶永四年父儀右衛門の遺知五十石を襲ぎ、定番御馬廻に列し、享和二年五十石を加へ、文化十一年三月歿した。

ヤシマヤジナイ 矢島彌次内 前田利家に仕へて二百五十石を領した。子孫藩に世襲する。

ヤジユウロウ 彌十郎 珠洲郡上山の内の小字。

ヤスイ 野陸 ↓ムトクリヨウゴ 無得良悟。

ヤスエウチ 安江氏 源平盛衰記壽永二年に、富樫が外戚の甥安江二郎盛高の名があり、陸涼軒日録長祿二年八月四日に安江庄内安江八郎左衛門入道跡と見え、富樫記長享二年高尾城討死の内に安江彌太郎・安江二郎、切腹の中に安江和泉がある。何れも石川郡安江に關係のある人であらう。

ヤスエキマチ 安江木町 金澤の舊町名。元祿九年の地子町肝煎裁許附に、『安江木町六枚町』と載せられる。此の町名は、元和二年十一月宿々傳馬役定書に宮腰口の木町と載せてあるから、古い町名で、今の田丸町・白銀町へかけ都べて安江木町と呼んだらしい。口碑に、昔安江村の村落が今の安江町の附近に在つた頃は、安江木町の地は上安江村の地内で、宮腰から運送せられる材木を取扱ふ商人が多く居たと。

ヤスエゴウ 安江郷 石浦神社所藏の寛永八年氏子地圖に、金澤安江町・安江木町邊を、倉月郷小名は安江の郷ともいふとしてゐる。

ヤスエシヨウ 安江庄 石川郡に在つた。陸涼軒日録長祿二年八月四日の條に、『南禪徳雲院内寶諸軒不知行、加賀國云々、同國安江庄内安江八郎左衛門入道跡、康正二年九月攝津守押領云々。』など、見える。安江庄は安江郷とも安江保ともいふのと同じ所であらう。

後世上安江村・下安江村とあるものは、これの遺であるが、位置を變じてゐるであらう。

ヤスエジンジャ 安江神社 金澤鍛冶町に鎮座する。式内等舊社記に、『安江八幡神社。鞍月庄安江村鎮座。舊社也。』と見える。社記に

石川郡安江郷八幡宮は朱雀天皇天慶二年河内國豊田より勸請、一説に圓融天皇貞元中勸請ともいはれる。高倉天皇安元二年郷侍安江次郎盛高之を再興した。當時上安江村今の下堤町のうしろ深見郎の地に社殿があつたが、後鍛冶町に轉じたと記するが、その創立に關する所傳は確實とも思はれぬ。本社を俗に鍛冶八幡といふた。末社に高良大明神・西宮惠美須兩社がある。神主は厚見氏。

ヤスエスミヨシジンジャ 安江住吉神社 石川郡下安江に鎮座する。社記に、神龜四年勸請し、安元中郷侍安江二郎盛高之を再興したが、その後永正三年一揆逆亂の際一旦退轉した。この地に楓の老樹があつた爲、大木の宮ともいふたが、寛永十四五年の頃枯れ、その木口は一丈二尺あつたと記する。神龜の創建とするは據がないであらう。

ヤスエチヨウ 安江町 金澤の町名。金澤草創の頃は、後の袋町邊から安江町にかけて上安江村の村落があつたが、それを市外に移した跡に建てた町であるといふ。

ヤスエホ 安江保 石川郡に在つた。後法興院政家記文明十八年八月廿四日の條に、『家門領加州安江保事、百姓致緩怠間、申武家奉書今日到來。』又後法成寺尚通公記永正五年五月十日の條に、『賀州從安江保有便狀、年貢可致直進之由申之。』など、見える。

ヤスエヤイソハチ 安江屋五十八 文政の末から春日山黨の陶工となり、又大極焼を大樋五代勘兵衛に學んだ。五十八の子太兵衛その後を受け、明治以降安田氏を買した。

ヤスエヤリエモン 安江屋理右衛門 代々理右衛門と稱し、初は金澤新堅町に在つたが、

後堅町に移つて、最も有名な醸造家であり、銘酒住之江を賣出した。廢藩後家道衰へ、明治十七年その地を退いた。

ヤスカツ 泰勝 加賀の刀工。二代七郎泰平の子。通稱松戸藤九郎。嘉永三年三月四日歿。

ヤスキダヨリカタ 安木田頼方 初名淳平。夙に父霞門に教を受けて字を習ひ歌學を修め、次いで明倫堂に漢學を、田中躬之に國學を修め、安政元年持明院基政より筆道の興義を皆傳し、同二年より慶應二年まで明倫堂の國學内用を勤務し、明治の後石川郡笠間神社・松任若宮八幡神社・同金劍神社等に神職たり、尋いで諸學校に教鞭を執つた。明治四十四年十月十六日歿、享年七十九。

ヤスキダリユウザン 安木田龍山 金澤の人。宗丹齋と號する。天保十四年『連歌のあらまし』を上梓し、弘化四年には連歌傳書を玉泉寺に與へた。

ヤスタニ 泰國 加賀の刀工。加州住泰國文政八年など、切る。泰平の一族であらうか。

ヤサダ 泰定 加賀の刀工。二代七郎泰平の二子。文化元年三月六日歿、齡廿五。

ヤシゲ 泰重 加賀の刀工。古刀期では藤島泰重と切るものがある、天正頃。又新々刀期では泰重と切るものがあり、二代七郎泰平の門人で、通稱を七右衛門といひ、文政二年に歿した。

ヤスタ 安田 陸涼軒日録文明十七年十二月十一日に、『雲門庵雲岫軒領、賀州安田八町田本役、爲御興昇料所町野方管之、四年不致其沙汰。』など、ある。この安田は、石川郡山島郷に屬する上安田若しくは北安田であ